

配布日	2017年1月1日 / (計12枚)			
疾病管理本部 危機対応総括課	課長 /担当者	ホ・ジョンウ/ ジョンジヒョク	電話	043-719-7190/7191
農林畜産食品部 防疫管理課		キム・ヨナ/ キム・ジョンジュ		044-201-2377

## 京畿抱川(ポチョン)市における猫の高病原性 AI 確診を受けた AI 防疫措置と人体感染予防守則

□京畿抱川市所在の家庭で斃死したまま発見された飼い猫オス1匹(12月25日)と野良子猫1匹(12月26日)について、

○12月31日農林畜産検疫本部は、高病原性 H5N6 型 AI と最終確定した。

### 〈京畿抱川における猫の高病原性確診経過〉

- ・12月25、26日京畿抱川所在の家庭でオスの飼い猫(12月25日)と野良子猫1匹(12月26日)が斃死したまま発見され、12月26日に飼い主が京畿道に申告
- ・京畿道北部の動物衛生試験所の検査の結果、AI ウイルスが疑われたことを受けて、12月30日農林畜産検疫本部に試料を送付して農林畜産検疫本部が試料受付と疾病管理本部に同事実の通知
- ・12月30日 農林畜産検疫本部疫学調査チームの現場到着と疫学調査。  
疾病管理本部、京畿道、抱川市保健所、揚州市保健所共同対応
- ・12月30日 農林畜産検疫本部が H5N6 型 AI ウイルス確認
- ・12月31日 農林畜産検疫本部が高病原性 H5N6 型 AI 確定

□(既措置事項) 農林畜産検疫本部と疾病管理本部は12月30日、AI 感染の疑いの猫の斃死体の件を確認次第、次の予防的措置施行

### 〈農林畜産検疫本部〉

○申告者の居住地の消毒等防疫措置を実施し、申告以前の野良猫(子1匹)埋葬の場所の消毒等の防疫措置

○感染経路疫学調査及び申告者の他のペット（犬 2 匹）\*の試料を採取して精密検査する一方、その動物を、居住地内隔離措置

○斃死体で発見された 2 匹（飼い猫オス 1、野良子猫 1）について 12 月 31 日、高病原性 H5N6 型 AI と確診

\*上記斃死した 2 匹以外に、斃死した野良子猫 1 匹（12.27 日）と捕獲した野良猫 4 匹（母 1 匹、子 3 匹）の試料を受付（12.31 日）して精密検査中

\*野良猫 4 匹は、京畿道北部の動物衛生試験所に隔離（隔離中の母 1 匹斃死）

○京畿道により周辺の野良猫の捕獲及び精密検査措置

<疾病管理本部>

○猫の死体接触者を把握して抗ウイルス剤投与等、AI 人体感染予防措置を実施、  
—管轄保健所を通じた接触者調査実施の結果、猫の所有者等 10 人の接触者と、その地域で猫の捕獲処理を実行した京畿道動物衛生試験所の従業員 2 人等、12 人を高リスク群に分類

○高危険群に分類された 12 人に対して抗ウイルス剤を投与し、季節性インフルエンザワクチンの接種の有無を確認した後、不接種者に対して接種を実施し、最大潜伏期間である 10 日間の症状が発生するかどうかを集中的に監視中

—12 月 31 日現在までに高危険群 12 人のうち、発熱・咳・のどの痛み等の症状を示す者はなし

□（猫 H5N6 感染関連）疾病管理本部は、中国で H5N6 AI に感染した猫が発見されたことはあるが、

○H5N6 AI に感染した猫から人が感染した事例はまだ報告されたことはなく、猫からの人体感染のリスクは非常に低いが、国民への予防守則の広報等、人体感染予防措置を実施する計画である

\* 2016 年に米国で H7N2 AI に感染した猫から獣医が感染した事例が報告されている

□（予防守則及び協力事項）政府は、AI 人体感染予防に向けて、以下の点を国民から積極的な協力を求めた。

○一般国民は、畜産農家や渡り鳥の飛来地訪問を自制し、野生の鳥、猫等斃死した動物との接触を避け、手を 30 秒以上よく洗い、手で目、鼻、口に触れることを避けること

○AI 発生農家従事者と殺処分作業の参加者等の高危険群は、個人用保護具を着用し個人衛生に細心の注意を払って、

—季節性インフルエンザワクチンの接種と抗ウイルス剤の服用を徹底的にして、作業に参加した後、10 日以内に発熱と咳、のどの痛み等が発生した場合、すぐに保健所または 1339（疾病管理本部コールセンター）に申告

○畜産農場主は、野良猫等の野生動物の農場内への進入を遮断し、家畜やペットに動物斃死体を餌として与える行為の禁止等の防疫管理

○野生動物との頻繁な接触をしたり、可能性が高い従事者\*は呼吸器症状や猫等との接触時に AI 感染予防守則を熟知して遵守

・ 獣医、動物保護センター、野生動物救助センターの管理者等

□( AI 防疫及び人体感染予防) 政府は、自治体と緊密に協力して家禽類の AI 感染を早期に遮断するために徹底した防疫を行う一方、人体感染予防に向けて最善を尽くす

○特に、疾病管理本部は、今回の H5N6 AI 関連の高危険群(農場従事者、現場防疫要員等)の散発的な人体感染の可能性に備えて、関係省庁、自治体と協力して予防に向けて最善を尽くし、

\*一般国民は、野生の鳥や AI 発生農家との接触の可能性が低く、人体感染の可能性は高いものと見ている。

○万一疑い患者が発生しても、すぐに国指定の分離病床に隔離入院、治療開始のための準備をしていると明らかにした

<添付>

1. 米国ニューヨーク動物保護センターの猫 AI 感染事例(和訳省略)
2. AI 人体感染症の予防行動守則(一般国民対象)
3. 獣医師、動物保護センター、管理者等の AI 感染予防守則(和訳省略)
4. AI 人体感染に関連する Q&A

添付 2

AI 人体感染症予防の行動守則(一般国民対象)

1. 畜産農家及び渡り鳥の飛来地訪問を自制し、発生地域訪問時の消毒措置等に積極的に協力してください。
2. 野生鳥類、家禽類、猫等の死体には接触しないでください。
3. 手を頻繁に、30 秒以上洗い、手で目、鼻、口を触ることを避けてください。
4. 呼吸器症状がある場合はマスクを使い、せき、くしゃみをする場合はティッシュで口と鼻を覆ってください。
5. AI 発生農家に訪問して家禽類と接触したり、野生鳥類の死体に接触した後 10 日以内に発熱、せき、咽喉痛等の症状が発生した場合、管轄地域保健所または、疾病管理本部コールセンター(1339)に申告してください。
6. AI 発生国を旅行する場合には畜産関係施設訪問を自制し、不法畜産物の国内搬入を避けてください。

## □ AI 人体感染関連一般 Q &amp; A

## 1. AI(鳥インフルエンザ)とは何ですか?

○ AI(鳥インフルエンザ)は鶏、鴨、七面鳥、渡り鳥等の色々な種類の鳥類に感染するウイルス性感染症で致死率等ウイルスの病原性程度により高病原性と低病原性に区分されま  
す。高病原性は鳥類に対するもので、人の感染とは直接関連性のない分類です。

○ AI 人体感染症は、鳥類で発生した AI が人に伝染して病気を起こすことをいいます。

## 2. AI はどのような経路を通じて人に伝播するのですか?

○ AI は主に感染した鳥類の糞便、糞便に汚染された物を手で接触した後に目、鼻、口等を  
触った時、ウイルスが伝播する可能性があります。

—まれに、汚染されたホコリの吸入を通じた感染も可能です。

## 3. 韓国では AI が発生して人に病気を起こした事例がありますか?

○韓国では鶏、鴨等、家禽類で H5N1 型、H5N8 型高病原性 AI が流行したことがありますが、  
現在まで人体感染事例は発生していません。

○今年国内家禽類で発生した H5N6 型は 2014 年から中国、ベトナム、ラオスおよび香港等ア  
ジア地域で流行し、人体感染事例は現在(16 年 12 月)までに中国で 17 人が感染し、そ  
のうちの 10 人が死亡しました。

\* H5N6 人体感染発生現況: 2014 年 4 月以後合計 17 人感染、10 人死亡、中国のみ発生  
(2016.12 月基準)

(発生地域) 広東省 6、湖南省 4、雲南省 2、湖北省 1、江西省 1、四川省 1、安徽省 1、  
広西省 1

## 4. 韓国で発生した H5N6 型 AI は人にとって危険なのですか?

○ AI 家禽類に直接接触した高危険群(AI 発生農家従事者、殺処分参加者等)の人体感染の  
可能性はあり、抗ウイルス剤の予防的投与および個人保護具を徹底的に着用して人体感染  
を予防しています。

○一般国民は野生鳥類、AI 発生農家との接触の可能性が低く、人体感染の可能性が非常に  
低いです。

○ H5N6 AI は現在まで人間間の伝播事例は報告されていません。

**5. AI が流行する中に鶏肉・鴨肉を食べても異常はないですか？**

○AI ウイルスは熱に弱く、75℃ 以上で、5 分で死滅するので、十分に加熱料理をした場合、感染の可能性が全くありません。

**6. インフルエンザ予防接種を受ければ AI 人体感染を予防できるのですか？**

○毎年接種している季節インフルエンザ予防接種は AI 人体感染を予防することができません。

○ただし、AI 家禽類に直接接触した高危険群（AI 発生農家従事者、殺処分参加者等）に対しては季節インフルエンザ発病を予防し、季節インフルエンザと AI 人体感染間での鑑別診断を容易にして、AI ウイルスと人ウイルスが重複感染することを防ぐために季節インフルエンザ接種をしています。

**7. AI 人体感染に対する治療剤がありますか？**

○AI 人体感染時には抗ウイルス剤で治療しています。また、高危険群を対象に予防目的で抗ウイルス剤を投与しています。

○韓国は、全体人口の 30%を治療することができるように、十分な量の抗ウイルス剤を備蓄しております。

**8. AI 人体感染を予防するにはどのようにしなければなりませんか？**

○畜産農家および渡り鳥の飛来地訪問を自制し、発生地域訪問時は消毒措置等に積極的にご協力をお願いします。

○野生鳥類、家禽類、猫等の死体には接触しないでください。

○手を頻繁に洗って、手で目、鼻、口を触ることを避けてください。

○呼吸器症状がある場合はマスクを使い、せき、くしゃみをする場合はティッシュで口と鼻を覆ってください。

○国内・外 AI 発生農家に訪問して鶏、鴨等の家禽類と接触後 10 日以内に発熱、せき、咽喉痛等呼吸器症状が発生した場合、直ちに管轄地域保健所または、疾病管理本部コールセンター(1339)に申告してください。

○AI 発生国を旅行する場合には畜産関係施設の訪問を自制し、不法畜産物の国内搬入を避けてください。

**9. 獣医師は AI 感染が疑われる動物診療時にどのような予防措置をしなければなりませんか？**

- 呼吸器症状等を見せる犬・猫等の動物は、検査室等により隔離し、待機室の他の動物との接触を遮断してください。
- 呼吸器症状等を見せる動物を診療する前に、衛生服・マスク・手袋・使い捨て手袋等、個人保護装備を着用してください。
- せきまたは、くしゃみをする犬・猫等、動物の鼻腔・口腔等のスワブ（swab）時、マスク等を着用してください。
- 呼吸器症状がある動物を接触する前・後に石鹼と水を利用して手を洗淨してください。
- 犬・猫等動物用ケージと動物がいた床・表面・動物用飼料及び水桶等を洗淨と消毒等、防疫措置をしてください
- 呼吸器症状等、AI 感染が疑われる動物がいる場合には、管轄家畜防疫機関（1588-4060, 1588-9060）へ申告してください。

**10. 動物保護所及び野生動物救助センターの職員はどのように人体感染を予防しなければなりませんか？**

- 衛生服・マスク・手袋等個人保護装備を着用してください。
- 呼吸器症状等を見せる犬・猫等動物は隔離してください。
- 呼吸器症状がある動物に接触する前・後に石鹼と水を利用して手を洗淨してください。
- 犬・猫等動物用ケージと動物がいた床・表面・動物用飼料および水桶等を洗淨と消毒等、防疫措置をしてください。
- 呼吸器症状等、AI が疑われる症状を見せる動物がいる場合には、管轄家畜防疫機関（1588-4060, 1588-9060）へ申告してください。

**11. 猫や犬をペットとして育てている場合、特別な管理が必要ですか？**

- 家庭で猫や犬を飼う場合は AI に感染する可能性が殆どありません。
- ただし、動物保護所から犬、猫を養子にした方は、その動物が養子縁組された後 10 日以内に呼吸器症状を見せた場合、動物病院に問い合わせたり、地方自治体の動物衛生研究所または、農林畜産検疫本部に検査を依頼してください。

○鳥インフルエンザ発生地域または、近隣に野生鳥類が生息する地域に居住する場合、ペットが居住地外部へ出ないようにしてください。

**12. 猫を通じて人が鳥インフルエンザに感染した事例がありますか？**

○ 2016年12月にアメリカのニューヨーク市の動物保護センターに勤める獣医師がH7N2型低病原性AIに感染した事実があり、動物保護センターにいた猫から感染したと推定されています。

○この獣医師は入院が必要なほどではなく、完全に回復しました。

掲載 URL:

[http://www.cdc.go.kr/ODG/noti ce/OdcKrIntro0201.jsp?menu ds=HOME001-MNU1154-MNU0005-MNU0011&f i d=21&q\\_t ype=&q\\_val ue=&ci d=72511&pageNum=](http://www.cdc.go.kr/ODG/noti ce/OdcKrIntro0201.jsp?menu ds=HOME001-MNU1154-MNU0005-MNU0011&f i d=21&q_t ype=&q_val ue=&ci d=72511&pageNum=)